

【事務局後書き】

北海道で事務局を引き受けてすでに2年間を過ぎようとしています。通信・理事会・会員名簿・会費納入管理の分担を図りながら、何とか引き継ぎにたどり着こうとしています。会員の皆さんのご協力で改めて厚く感謝申し上げます。また、通信の発行が遅れ気味で、ご迷惑をおかけすることが多く、今回もプログラムとあわせて発行することになってしまいました。反省ばかりの日々を送っています。

8月にシカゴで開催されたアメリカ農村社会学会に参加して、日本の小農経営と介護問題についてポスターセッション報告をしたところ、意外に関連性のある話題を聞くことができました。国土が広いと、国内の学会開催がすでに国際学会のような感じですが、海外からの留学生の報告も多く、留学をする優秀な人間がアメリカの農務省のなかで活躍しているということでした。ありとあらゆるテーマが取り組まれている感じで、社会学会の相当部分の領域をカバーしていることもアメリカ農村社会学会の特徴となっているようです。

学会事務局の様子も仕事柄、興味があり、聞くとボランティア活動のような要素が強く、かつそれを高く評価する仕組みが社会に存在していることが組織の継続に結びついているようです。学会大会の運営で、圧倒されたことは、Webサイトがミズリー大学におかれ、大会申し込みや大会報告が要旨原稿を書き込むとすぐに送信できるようになっており、大会プログラムも適宜更新され、みんなでプログラムを作成するようなスタイルになっていることでした。あちこちの部会の司会者募集などもプログラムに掲示されており、さすがにインターネットの普及している国らしいと感心しました。

さらに感心したことは農務省のセンサスデータ調査部と学会の共同研究の体制ができており、情報提供がスムーズに行われていて、農業問題を統計上、的確に議論する場があり、見直しがなされる場があるということがうかがわれ、今後のわが国の農政にも村落研究学会の研究成果を反映できるような体制を考えていく必要を感じました。（杉岡）